

2011.10月号

平成23年10月20日発行

発行元 NPO法人陽だまり
発行元住所 〒739-0043
東広島市西条西本町27-37高貴ビル201
電話 082-422-4115
<http://www.npo-hidamari.or.jp>

主な記事

定期総会・子育て支援・移動サービス
協働・新活動者紹介
代表「感謝の気持ち」
事務局日より

定期総会開催

平成23年5月14日(土)、中央生涯学習センターにおいて平成23年度総会を開催しました。今年度は、これまで監事だった前原一之氏が副代表補佐となり、新たに監事として東広島市社会福祉協議会事務局長の高橋康裕氏が就任しました。

総会終了後は、お馴染みとなった茶話会です。今回は80代、90代の参加者からいつまでも元気であるための秘訣をお聞きし、その明るく前向きなお姿に一同感心しきりでした。たくさん笑って、心温まる和やかなひとときとなりました。



求められているのだろう、という感を強くしています。



エコクラフトでかご作り

さて、今年の夏休みも、クッキング、エコクラフト、手廻しオルゴールと活動内容が多彩でした。また、大学生企画「おにいさんおねえさんと一緒に遊ぼう」シリーズでは、広島国際大学や広島大学の学生さんたちと一緒に、水族館づくりやレクリエーションをしました。3つの小学校から集まったその日限りのメンバーですが、子どもたちはすぐに打ち解け、いつもとは違う集団での活動を思う存分楽しんでいました。この夏は全8回開催し、延べ230



大学生のおにいさんと水族館づくり

人の子どもの参加と、延べ62人のボランティアの協力がありました。活動の様子は、NHKニュースやRCCラジオカーで紹介されました。



さらに今年は、広島国際大学との共同企画「ヒロコク☆スタミナ巻きに挑戦」も行います！大学祭に小学生が参加し、お祭りも見学できるといった内容です。詳細は次号で報告します。

交通課題への取り組み

平成23年6月4日(土)、5日(日)の両日、移動サービスの運転者育成を目的とした「福祉有償運送運転者講習会」を開催しました。外部からの参加も含め17名が受講し、うち6名が陽だまりの運転会員となりました。



また、今年は事業登録の更新の時期でしたが、新たに3年間

子どもの居場所づくり

今年度も、夏休み、秋休み、春休みに「陽だまり発！子どもの居場所づくり」事業を企画しています。今年は3年目になりますが、すっかり地域の子どもたちに定着したのか、募集の度に高倍率の抽選となっています。それだけ、このような場が

の登録を受けることができました。これも、日頃から安全第一で活動している運転会員のみなさんのご協力のおかげと感謝しています。

協働に向かって

昨年から「協働」について勉強を進めてきましたが、今年ついに『協

働パワーアップ研修会』として、行政、NPO団体、市民・ボランティア団体、市議会議員、企業・大学等を対象とした合同の研修会を企画しました。講師には、自治体職員とNPOとの合同研修で実績のある川北秀人氏をお招きします。この研修が出会いの場となり、NPOや自治組織など様々な活動団体同士

のつながりだけでなく、行政や企業、大学等との連携づくりのきっかけになればと願っています。

日時：平成23年12月17日(土)

13:30-16:30

会場：サンスクエア東広島

2階 研修室1・2

参加費：無料(資料代100円)



新活動者の紹介



4歳の息子と一緒に、できる範囲で活動しています。移送・犬の散歩等、小さな手助けが、一方的でなく相互的で私たちも新たな発見・喜びを得ています。

掛谷 果苗

微力ながら、少しでもみなさんのお役に立てたらと思いますので、お迎えに行きました際は、よろしくをお願いします。

木原 和雄

57歳で会社を退職しました。第2の人生に介護の勉強を始めました。ようやく仕事にも慣れて生きがいを感じ楽しくなってきた矢先、2年前家の都合で退職しました。介護への仕事復帰を望み、一歩踏み出せずにいる時、友人に“陽だまり”を紹介されました。

“お世話をするのが大好きです”

“ありがとうございます笑顔が大好きです”

これからも訪問の時間を大切にしていきたいと思えます。よろしくをお願いします。

高濱 純子

こんにちは。高美が丘で助け合い『ゆい』をテーマに、生き生きライフをサポートする「達磨の会」を運営しております。出会いを大切に、お互い助け合い、健康で生き活きた生活を送っていけるようにとの思いからこの度、私ができることとして、陽だまりさんで移送サービスの活動をさせていただくことになりました。

利用者様に、いかに喜んでいただけるサービスができるかを心がけ頑張りたいと思います。

どうぞ宜しくお願い致します。

右田悦雄

初めまして。8月から活動をさせて頂いています。この活動でしか出会えない方々とのご縁を大切にしながら、楽しく、安全を心がけてひとつひとつ活動をしていきたいと思えます。

谷本 知恵美



他に、植木の剪定が得意で移送サービスの運転手もして下さる土井嘉弘さんが、活動者に登録して下さっています。今年度はこの6人が新メンバーです。どうぞよろしくお願いいたします。

「感謝の気持ち」

代表 廣瀬 長子

これまで私は数えきれないほど、多くの人たちに支えられながら生きてきた。年を重ねるにつれて、支えていただいた人たちに感謝する気持ちは強くなっていく。そんな思いは私だけではないと思う。その中で感謝をしても感謝しきれない人がいる。その人は一。

今から75年前、6年前に亡くなった私の夫は生後9カ月で実母と死別した。実母は流行り病^{はややまい}で亡くなったという。今の医学であれば死ぬことはなかっただろうに。残された家族は9カ月の乳呑児を抱え、途方に暮れたと思う。幸い近くに慈悲深い中年のおばさんが住んでおられ、そのおばさんが乳呑児を引き取って養育して下さったのである。その家族は、やさしいおばさん夫婦と、女学生と中学生の男の子3人であった。そこで夫は家族の皆から溢れんばかりの愛情を注いでもらい成長していった。

年月は流れ、当時女学生だった姉が今一人残っている。89歳になった。姉は生涯独身で、仕事一筋に生きてきた人である。4年前から一人暮らしが困難に

なり、郷里を離れて私の家の近くにあるホームで、毎日皆に感謝しながら穏やかな生活をしておられる。本来なら、大恩のある夫がお世話するはずだったが、夫がいない今、私が代わりにお世話させてもらっている。といっても、ホームで必要なことは全部して下さるので、私のすることは大したことではない。

元気な頃、姉はいつも人には親身になってお世話をしておられた。しかし決して見返りを求めない人であった。「育ててあげたのに」というような言葉を夫も私も一度も聞いたことはなかった。本当に見事な生き方をした人であった。

これから私にできることは、常に感謝の気持ちを忘れずに、私の近くでいつまでもこの穏やかな生活を続けてもらえるように、見守っていくことではないかと思っている。